

## 第2回日本フードツーリズム学会 研究大会

# 講演会:「現代イタリア人の食のこだわりと エノガストロノミックツーリズム」(13:30~14:30) & 報告会:「フーディーズ研究」(14:30~15:30)

2020年2月22日(土)  
13:30~15:30(受付 13:00~)

会場:大阪府立大学 I-site なんば 2F S1 会議室  
(御堂筋線「大国町」又は堺筋線「恵美須町」下車数分)

【I部 講演主旨】現代におけるイタリア人消費者の食へのこだわり、つまり健康を強く意識する食生活の在り方が注目されている。こういった食へのこだわりに目を向けると、イタリア人のバカンスの形態にも影響を及ぼしていることがわかる。それはエノガストロノミックツーリズムの盛況である。ツーリズムにおける観光者のベネフィットは、地域の真正性と独自性を併せ持つ高い品質を誇る農産品の試食・試飲・購買にある。イタリア人の食へのこだわりをエノガストロノミックツーリズムへの志向といった文脈に接続したうえで、現代人の食に求める価値の在り方がツーリズムのアトラクションと深く結びついている。

講演者:玉置桃子氏  
(関西外国語大学准教授)  
プロフィール



大学卒業後 KLM オランダ航空会社に客室乗務員として入社。退社後、イタリアミラノ市に10年間滞在。ミラノジェットロセンターでイタリア語会議通訳者・翻訳者として活動。帰国後、関西外国語大学非常勤講師を経て現職。日本フードツーリズム学会正会員。大阪外国語大学大学院言語社会研究科 地域言語社会専攻修士。

【II部 報告会】「フーディーズ研究」:フーディーズとは? フーディーズとメディア史、外国人ブロッガーから見た日本のレストラン、「食ベログ」による都市の食文化比較など、フーディーズとフードツーリズムについて研究しました。

報告発表:フーディーズ研究会メンバー: 和栗隆史、井上朋子、中村忠司、坊農 文、立花尚子、尾家建生

III部 研究発表会 (JFTS 会員のみ参加となります。ただし、入会に関心のある方は傍聴が可能です) (15:40~18:15)

・和栗隆史「近現代の日本におけるフードメディアの変遷に関する予備的考察」・李 娜「地域の食文化とアイデンティティの関係に関する研究動向」・坊農文「観光における食に関する体系的研究の動向 — Greg Richards, Tourism and Gastronomy 第1章」・近藤政幸「大地の芸術祭」が魚沼生産者に与えた影響〜アートのまなざしで目覚めた雪国食」・小畑博正「サン・セバスチアンの美食戦略」

●参加申込:参加者氏名、所属、連絡先(Tel番号)を記入し、必ず次のEメールアドレス先にお申込みください。

(先着 15名まで) E-mail jimuf@foodtourism.jp

●参加費:無料 ●一般の方の参加はI部、II部までとなりますのでご了承ください。

主催

日本フードツーリズム学会

共催



大阪府立大学  
OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY

観光産業戦略研究所



大阪観光大学  
Osaka University of Tourism